

# 柳に雪折れなし



## 研究テーマ

主に、失業した際の生活をどのように保障すべきかについて研究しています。この研究テーマは、社会保障法と労働法という二つの領域にかかわりますが、育児や介護といった家族ケアの責任を負う人の問題を社会保障法と労働法の二つの視点から考えることにも関心を持っています。

## 研究の道へ進んだきっかけ

大学2年生の時に「仕事と家庭、どちらを選ぶ？」と問われたことがきっかけでした。1,2週間考え込み、いくつかの本を読んでその時出た答えは「どちらも大事なので、二者択一にはできない」でした。しかし、実際には均等法が成立した後も、女性が家庭を持って仕事を続けることはまだまだ困難だとい

うことを知り、原因や解決策を考えたいと思って大学院に進学しました。

## 研究者になってよかったと思うこと

自分の興味のあることを考え続けられることです。研究は、ゴールが近づいたと思うとまた振出しに戻るようなところがありますが、それでもひとつの論文にまとめられたときは達成感が得られます。そうして書いた論文が、少しでも世の中を良くすることに役立てば、とても嬉しく思います。

## 座右の銘

柳に雪折れなし

## 高島 淳子

TAKAHATA Junko

京都産業大学 法学部 教授  
専門分野：社会保障法・労働法

## 略歴

1997年京都大学法学部卒業。2002年京都大学大学院人間・環境学研究所博士課程単位取得満期退学。同年京都産業大学法学部に着任。2006年から1年間ドイツのマックスプランク外国・国際社会法研究所客員研究員。2013年より現職。

## 最近の主な論文・評釈

- 「ワーク・ライフ・バランス施策の意義と実効性の確保」  
季刊労働法220号
- 「失業による労働生活の中断と所得保障」  
社会保障法第27号
- 「社会保険料免除の意義」  
社会保障法研究第2号
- 「次世代育成支援対策推進法の改正と今後の課題」  
季刊労働法246号
- 「不安定雇用・失業・求職者支援」  
論究ジュリスト11号
- 村中孝史・水島郁子・高島淳子・稲森公嘉編  
『労働者像の多様化と労働法・社会保障法—西村健一郎先生古稀記念論集』(有斐閣)
- 菊池馨実編、稲森公嘉・高島淳子・中益陽子  
『ブリッジブック社会保障法』(信山社)

## 研究紹介

日本では、失業中は、雇用保険に基づいて生活のための金銭が支給され、同時に、再就職のために職業紹介や職業教育訓練が行われます。雇用保険ではなく、求職者支援制度や生活保護によって生活が支えられることもあります。ようやく複数のセーフティネットが張られたのですが、それでも網目からこぼれ落ちる人がいたり、制度に依存する人がいたり問題は残されています。ドイツでは大きな労働市場改革を実施することで問題に対応しようとしているので、ドイツの法制度と比較して、日本法の改善策を考えています。



## My Hobby

朝ドラの鑑賞

## BEST SHOT

アクションプランナー。バーチャルタイプの手帳です。これに自分の仕事はもちろん、プライベートも家族の予定も全て書き込みます。空き時間が一目でわかりますし、いつ何をするかを書き込めるので、時間管理に役立ちます。色柄が豊富で、毎年お気に入りを探るのも楽しみです。



## 研究とプライベートの両立で工夫していること

子どもが生まれてからは、週末や祝日など、それまで研究に充てていた時間が使えなくなったので、できる限りウィークデーに仕事を進めるよう心がけています。理想は4時には起きて仕事をスタートすること。寒い冬はなかなか起きられませんが…

人生の転機になった一冊／学生に薦めたい一冊  
リンダ・グラットン『ワーク・シフト—孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』(プレジデント社、2012年)は、豊富なデータに基づいて2025年の未来予想図を描いています。「あと10年足らずでこんな世の中になるのか!」と驚くこと必須です。

## 未来の研究者へ一言

自分の興味のあることとはいえ、研究が思うように進まないときもあります。子どもや家族の事情で時間に制約が出てくると、なおさら、研究を続けられるか自信を失うこともあるでしょう。そんな時は「あと少しだけ」がんばってみてください。人の能力は、もう無理だと思う時にもうひと頑張りすることで伸びるのだそうです。

